

# 休日の過ごし方は変化しているのか？

—『社会生活基本調査』を用いた生活時間の変化の計測—

明星大学 経済学部 梶谷真也

---

## • 目的

—『社会生活基本調査』の匿名データを用いて、若年既卒者の休日の過ごし方の変化について分析する。

- 休みの日の時間配分はどうなっているのか？
- 休みの日の時間配分がこの20年でそれぞれどのように変化したのか？

# 研究の背景・本論文の貢献

---

- 経済学の分析においても個人の時間配分を分析対象とする研究が蓄積されつつある。
  - 個人の時間配分に注目することの重要性を指摘（Juster and Stafford (1991) や Hamermesh and Pfann (2005)）



# 研究の背景・本論文の貢献

---

- 標準的な経済学の分析では消費と余暇から効用を得ると考え、利用可能な時間のうち労働に費やす時間以外をすべて余暇時間とするのが一般的。
  - 余暇のうち「積極的に」活動した時間に注目することの重要性
  - 余暇時間のうち何らかの生産に使用する時間を取り出して分析すれば個人の行動を上手く表現できる可能性もある。



# 研究の背景・本論文の貢献

---

- 余暇の中身についての分析

- 睡眠時間

- Biddle and Hamermesh(1990)・・・アメリカの時間調査を使って, 睡眠の需要関数を推定.
    - Yamada et al.(1999)・・・社会生活基本調査を使って同様の推定.

- 家事時間

- Aguiar and Hurst(2007)・・・余暇時間の増加は家事時間の趨勢的な減少によるものであることを指摘.



# 研究の背景・本論文の貢献

---

- 労働時間が余暇時間の中身に与える影響
  - Ahn et al.(2005)・・・スペインの時間調査を使って、失業者の家事時間が長いことを指摘.
  - Aguiar et al.(2013)・・・アメリカの時間調査を使って、不況期の労働時間の減少分の10%がテレビ視聴, 20%が睡眠, 30%が家事にそれぞれ充てられることを指摘.
  - Lee et al.(2012)・・・労働基準法の改正による法定労働時間の減少分の多くがテレビ視聴に充てられること, 男性の場合は家事に充てられることを指摘.



# 研究の背景・本論文の貢献

---

- これらの研究が指摘していること
  - 個人の時間配分の分析には生活時間の中身についての議論が求められる。
  - 市場労働時間が変化する影響の大きさ。
  - 特定の行動時間は個人の属性によって大きく異なる。
- 本稿では、個人において市場労働時間の変化が顕著にみられる「ふだんの日」と「休みの日」(市場労働を行わない日)の生活時間の使い方の違いに着目。
- 『社会生活基本調査』の匿名データを用いて休みの日の生活時間に時系列的な変化が見られるかを個人の異質性を考慮して分析。



# 研究の背景・本論文の貢献

---

- 「ふだんの日」とは？

『社会生活基本調査』では、生活時間を尋ねる特定の日について、

「旅行(1泊2日以上)」・「行楽(半日以上の日帰り)」  
「行事または冠婚葬祭(半日以上に参加)」  
「出張研修など」  
「療養」「**休みの日**」「**その他**」

と分類。このうち「その他」に該当する日を「ふだんの日」と定義。



# 分析のイメージ

連続する2日間の時間配分を尋ねているので、1日目かふだんの日サンプルの各生活時間について

	1991年	1996年	
2日目(休み)-1日目(ふだん)	A	C	
2日目(ふだん)-1日目(ふだん)	B	D	
	A-B	C-D	(A-B)-(C-D)



# 主な結果

---

- 男女ともにふだんの日に比べて休日の睡眠時間は長い。
- 休日の睡眠時間が有業者では年々増加しているのに対して、男性無業者では確認されず、女性無業者では年々減少している。
- 有業者の家事・育児時間は男女ともに休日のほうが長いのに対して、女性無業者は休日のほうが家事時間と育児時間が短い。
- 有業者の休日のスポーツ時間が男女とも年々減少している。



# 使用するデータセット

---

- 『社会生活基本調査』

- 国民の生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況を明らかにするための基礎資料を得ることを目的として1976年から総務省が実施する大規模タイムユースサーベイ。
- 1986年実施の調査からは、9月末から10月中旬にかけての9日間の調査期間において調査区ごとに指定した連続する2日間の個人の生活時間を調査する。
- 本稿では、統計法36条に基づき、独立行政法人統計センターにデータの提供依頼を行い、承諾を得て提供を受けた1991年・1996年・2001年・2006年のプリコード方式の匿名データを用いる。



# 使用するデータセット

---

- 『社会生活基本調査』では，20項目の生活行動から回答者の行った行動が15分単位で記入される。
  - － 「睡眠」「身の回りの用事」「食事」「通勤・通学」「仕事」「学業」「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」「移動(通勤・通学を除く)」「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「休養・くつろぎ」「学習・研究(学業以外)」「趣味・娯楽」「スポーツ」「社会的活動」「交際・付き合い」「受診・療養」「その他」。
  - － 本稿では，若年層の生活時間に注目するため，15歳から39歳までの回答者にサンプルを限定。



# 推定モデル

---

- 個人*i*について、行動内容ごとに余暇に費やす時間決定式が以下のように書けるとする。

$$R_{id} = \mathbf{X}_i \boldsymbol{\alpha} + \beta \text{Day}_{id} + \mu_i + \varphi + \varepsilon_{id}$$

- $R$  = 余暇時間,  $\mathbf{X}$  = 観察される異質性,  
 $\text{Day}$  = ふだんの日か休みの日かを表すダミー  
 $\mu$  = 個人の観察されない異質性,  $\varphi$  = 定数項,  
 $\varepsilon$  = 誤差項



# 推定モデル

---

- 『社会生活基本調査』からは、同一個人について連続する2日間の行動時間が得られる.
- 個人*i* について1日目 ( $d = 1$ ) と2日目 ( $d = 2$ ) の時間決定式をそれぞれ示すことができる.
- 連続する2日間の余暇時間の階差を取ると

$$\begin{aligned}\Delta R_i &= R_{i2} - R_{i1} \\ &= \gamma(\text{Day}_{i2} - \text{Day}_{i1}) + (\varepsilon_{i2} - \varepsilon_{i1}) \\ &= \gamma \text{Day}_i + \varepsilon_i\end{aligned}$$



# 推定モデル

---

- $\Delta R$ は2日目の余暇時間から1日目の余暇時間を引いたもの.
- $Day = 2$ 日目が休みの日であるかどうかを示すダミー変数.
- 階差を取っていることから, 個人 $i$ の観察される異質性  $X$  と観察されない異質性  $\mu$  定数項  $\varphi$  は消去される.



# 推定モデル

---

- 各年について推定式を示すと
- $\Delta R_{i,1991} = \gamma Day_{i,1991} + \varepsilon_{i,1991}$
- $\Delta R_{i,1996} = \gamma Day_{i,1996} + \varepsilon_{i,1996}$
- $\Delta R_{i,2001} = \gamma Day_{i,2001} + \varepsilon_{i,2001}$
- $\Delta R_{i,2006} = \gamma Day_{i,2006} + \varepsilon_{i,2006}$
  
- 1991年をベンチマークとした年ダミーの変数と2日目の曜日ダミーをそれぞれ加えてまとめると,



# 推定モデル

$$\begin{aligned}\Delta R_i = & \gamma_1 Day_i + \gamma_2 Day_i D1996_i + \gamma_3 Day_i D2001_i + \gamma_4 Day_i D2006_i \\ & + \delta_2 D1996_i + \delta_3 D2001_i + \delta_4 D2006_i \\ & + \theta_1 Dmon_i + \theta_2 DTus_i + \theta_3 DWed_i + \theta_4 DThu_i + \theta_5 DFri_i + \theta_6 DSat_i + \varepsilon_i\end{aligned}$$

- 各年ダミーと2日目の曜日ダミーを説明変数として含める.
- $\gamma_1$  = ふだんの日と比べた休みの日の余暇時間の変化
- $\gamma_2$  = 1996年におけるふだんの日と比べた休みの日の余暇時間の変化
- $\gamma_3$  = 2001年におけるふだんの日と比べた休みの日の余暇時間の変化
- $\gamma_4$  は2006年におけるふだんの日と比べた休みの日の余暇時間の変化
  
- 「睡眠」「仕事」「家事」「育児」「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「趣味・娯楽」「スポーツ」「社会的活動」それぞれに費やす時間についてそれぞれ推定.



# 推定結果

パネルA 男性

	(1)	(2)	(3)	(4)
	$\Delta Sleep$	$\Delta Housework$	$\Delta Childcare$	$\Delta Watching TV$
<i>Day</i> (休みの日)	107.824***	13.702***	12.541***	107.319***
<i>Day</i> *1996年	8.169	-6.110***	-0.222	5.133
<i>Day</i> *2001年	12.942**	-5.032***	-0.005	-11.914**
<i>Day</i> *2006年	24.703***	0.775	6.237**	-17.190**
サンプルサイズ	51944	51944	51944	51944



# 推定結果

パネルA 男性

	(5)	(6)	(7)
	$\Delta Hobbies$	$\Delta Sports$	$\Delta Volunteer$
<i>Day</i> (休みの日)	80.638***	27.951***	6.700***
<i>Day</i> *1996年	-6.699	-7.499***	-4.351***
<i>Day</i> *2001年	2.633	-12.372***	-3.724***
<i>Day</i> *2006年	19.319**	-12.821***	-3.464**
サンプルサイズ	51944	51944	51944



# 推定結果

## パネルB 女性

	(1)	(2)	(3)	(4)
	$\Delta Sleep$	$\Delta Housework$	$\Delta Childcare$	$\Delta Watching TV$
<i>Day</i> (休みの日)	76.497***	36.326***	4.198***	53.171***
<i>Day</i> *1996年	6.865	-5.618	-2.108	9.236*
<i>Day</i> *2001年	9.892*	1.568	1.514	-5.188
<i>Day</i> *2006年	17.880***	13.547**	14.924***	10.465*
サンプルサイズ	57069	57069	57069	57069



# 推定結果

パネルB 女性

	(5)	(6)	(7)
	$\Delta Hobbies$	$\Delta Sports$	$\Delta Volunteer$
<i>Day</i> (休みの日)	38.983***	14.598***	5.164***
<i>Day</i> *1996年	-8.148**	-7.740***	-6.764**
<i>Day</i> *2001年	-2.805	-8.064***	-1.116
<i>Day</i> *2006年	6.949	-9.250***	-1.210
サンプルサイズ	57069	57069	57069



パネルA1 男性・有業

	(1) $\Delta Sleep$	(2) $\Delta Housework$	(3) $\Delta Childcare$	(4) $\Delta Watching TV$
<i>Day</i> (休みの日)	108.200***	13.896***	12.733***	107.966***
<i>Day</i> *1996年	8.876	-6.202***	-0.335	5.221
<i>Day</i> *2001年	13.363**	-5.076***	-0.044	-11.883**
<i>Day</i> *2006年	24.616***	0.366	5.941**	-18.355***

パネルA3 男性・無業

<i>Day</i> (休みの日)	82.518***	1.856	-0.002	63.095**
<i>Day</i> *1996年	-37.639	-5.030	3.345	-27.729
<i>Day</i> *2001年	16.272	4.979	-1.211	-74.233
<i>Day</i> *2006年	-55.050	34.080	0.180	31.012



パネルA1 男性・有業

	(5)	(6)	(7)
	$\Delta Hobbies$	$\Delta Sports$	$\Delta Volunteer$
<i>Day</i> (休みの日)	81.337***	28.361***	6.848***
<i>Day</i> *1996年	-6.608	-7.871***	-4.510***
<i>Day</i> *2001年	1.451	-13.146***	-4.021***
<i>Day</i> *2006年	18.702**	-13.316***	-3.618**

パネルA3 男性・無業

<i>Day</i> (休みの日)	19.168	-3.237	-1.974
<i>Day</i> *1996年	-19.287	19.272*	2.879
<i>Day</i> *2001年	46.360	50.979	11.591
<i>Day</i> *2006年	-38.464	3.883	-0.252



パネルB1 女性・有業

	(1) $\Delta Sleep$	(2) $\Delta Housework$	(3) $\Delta Childcare$	(4) $\Delta Watching TV$
<i>Day</i> (休みの日)	77.606***	50.654***	9.766***	59.466***
<i>Day</i> *1996年	15.011***	-8.191**	-3.855**	13.422**
<i>Day</i> *2001年	18.930***	-6.117	-6.655***	-2.165
<i>Day</i> *2006年	23.530***	-3.781	2.540	4.160

パネルB3 女性・無業

<i>Day</i> (休みの日)	54.002***	-71.167***	-34.070***	0.597
<i>Day</i> *1996年	-14.037*	29.065***	2.694	3.589
<i>Day</i> *2001年	-17.454**	29.780***	21.584**	-14.248
<i>Day</i> *2006年	-65.356***	-7.443	30.084*	63.301***



パネルB1 女性・有業

	(5) <i>ΔHobbies</i>	(6) <i>ΔSports</i>	(7) <i>ΔVolunteer</i>
<i>Day</i> (休みの日)	40.844***	14.846***	5.942***
<i>Day</i> *1996年	-6.660*	-6.814***	-6.769**
<i>Day</i> *2001年	-2.182	-7.674**	-1.388
<i>Day</i> *2006年	5.632	-9.091***	-2.225

パネルB3 女性・無業

<i>Day</i> (休みの日)	15.300**	11.358***	-1.893
<i>Day</i> *1996年	-5.504	-7.644*	-1.012
<i>Day</i> *2001年	1.024	-8.011	0.516
<i>Day</i> *2006年	-18.960***	-12.470***	1.875



# まとめ

## ● 目的

- 『社会生活基本調査』の匿名データを用いて、若年既卒者の休日の過ごし方の変化について分析した。
  - 休みの日の時間配分はどうなっているのか？
  - 休みの日の時間配分がこの20年でそれぞれどのように変化したのか？

## ● 結果

- 男女ともにふだんの日に比べて休日の睡眠時間は長い。
- 休日の睡眠時間が有業者では年々増加しているのに対して、男性無業者では確認されず、女性無業者では年々減少。
- 有業者の家事・育児時間は男女ともに休日のほうが長いのに対して、女性無業者は休日のほうが家事時間と育児時間が短い。
- 有業者の休日のスポーツ時間が男女とも年々減少。

